

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676300132
法人名	有限会社 園田福祉サービス
事業所名	グループホーム 愛の家
訪問調査日	平成21年11月17日
評価確定日	平成22年1月5日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4676300132
法人名	有限会社 園田福祉サービス
事業所名	グループホーム 愛の家
所在地	鹿児島県曾於市大隅町月野1562番地3 (電話) 099 - 471 - 2220

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年11月17日	評価確定日	平成22年1月5日

【情報提供票より】(21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 23 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 14.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 1日 250円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	4 名	要支援2			
年齢	平均 84.9 歳	最低	71 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津曲胃腸科整形外科・岩川クリニック・ハッピーデンタルクリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園地帯にある当ホームは、長年認知症ケアに携わってきた管理者の思いがこめられた実に温かな雰囲気グループホームである。管理者、職員は常に向学心を持ち、様々な病気から起こる認知症についての勉強会に積極的に参加し、個々に合ったケアの実践に日々取り組んでいる。また、理念にも謳っている健康管理、食の安全についての取り組みは、自家製の味噌や無農薬の野菜、米、果物などをホームの畑で作っており、採れたての野菜をふんだんに使った食事が体質改善に結びつき、利用者の心と体の健康につながっている。また、野菜のおすそ分けなどを通じて近所付き合いのきっかけにもなっている。ターミナルケアについても何よりも利用者本人の意思を尊重し、最期まで看ることが出来るホームを職員も誇りにしており、利用者、家族にとって常に最善の支援が行えるように取り組んでいる。開設7年目ではあるが、運営者、職員は常に向上心を持って日々取り組んでおり、質の高いサービスを提供しているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善すべき課題はなかったが常により良いケアを目指し取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価は各ユニットで全員で取り組み、統一したものにまとめあげた。外部評価の結果は運営推進会議で出席者に配布し報告している。また、玄関に置いて、いつでも閲覧できるようにしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	校区公民館長、民生委員、市役所職員、老人クラブ会長、文化協会長、消防署及び近隣協力隊員、家族などの幅広い参加者を得て2ヵ月に1回開催している。ホームの敬老会に会議を開催し、できるだけ多くの家族に参加してもらったり、避難訓練の後に反省会を兼ねて運営推進会議を行うなど、様々な場面での意見や助言をホームの運営に活かしている。災害時の救助要請の方法の一つとして、電話連絡より鐘を鳴らしたほうが近隣に分かるとの意見があり、ホームの外に警鐘を設置するなどホームの安全対策にも活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	入居時に家族からの要望がよく出る。利用者にとって必要なことについてはできるだけ叶えられるように職員全員で話し合い、支援している。家族とは密にコミュニケーションをとるように努め、気軽に意見、要望を表せるような雰囲気作りに努めている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	日常的にホームで採れた野菜のおすそわけや散歩の途中でのあいさつなど地域住民として交流に努めている。ホームでの行事に近所のお年寄りにも声をかけ、遊びにきてもらったり、地域の農協祭りや夏祭りの見学に向向くなどしている。また、地域の方々がボランティアで畑作業を手伝いに来てくれたり、婦人会が踊りなどでホームに遊びに来てくれる。中学生や高校生の体験学習の受け入れもしている。災害対策としては避難訓練に近隣消防隊の参加もあり、非常時は地域との連携がとれる体制が出来ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念のひとつに「地域とのふれあいを多く持ち、社会の一員であることを認識してもらえるように努めます」との文言があり、社会で当たり前のように暮らし続けることを支える内容の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全員で作成し、毎月のミーティング時や朝礼時に確認している。常に利用者を丸ごと受け入れるように話し、職員も理念の実践に向けて日々取り組んでいる。また、運営推進会議、家族会でも理念について話をすることもある。パンフレットにも明記し、玄関、ホール、職員用トイレにも掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的にホームで採れた野菜のおすそわけや散歩中でのあいさつなど地域住民として交流に努めている。ホームでの行事に近所のお年寄りにも声をかけ、遊びにきてもらったり、地域の農協祭りや夏祭りの見学に出向くなどしている。また、地域の方々がボランティアで畑作業を手伝いにきてくれたり、婦人会が踊りなどでホームに遊びにきてくれる。中学生や高校生の体験学習の受け入れもしている。災害対策としては避難訓練に近隣消防隊の参加もあり、非常時に地域との連携がとれる体制である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットで全員で取り組み、統一したものにまとめあげた。外部評価の結果は運営推進会議で出席者に配布し、報告している。また、玄関においてあり、いつでも閲覧できるようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	校区公民館長、民生委員、市役所職員、老人クラブ会長、文化協会長、消防署及び近隣協力隊員、家族などの幅広い参加者を得て2ヵ月に1回開催している。ホームの敬老会に会議を開催してできるだけ多くの家族に参加してもらったり、避難訓練の後に反省会を兼ねて運営推進会議を行うなど、いろいろな場面での意見や助言をサービス向上に活かしている。災害時の救助要請の方法の一つとして、電話連絡より鐘を鳴らしたほうが近隣に分かるとの意見があり、ホームの外に警鐘を設置するなどホームの安全対策にも活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	曾於市の地域包括支援センターが小規模多機能とグループホームの曾於地区連絡協議会を立ち上げており、毎月開催している。他にも相談や助言をもらうなど連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを毎月発行し、担当者より暮らしぶりや健康状態を報告している。金銭管理は行わず、ホームでの立て替えにしており、利用料とともに領収証を添えて請求している。職員異動もホーム便りで報告している。また、入居後1週間は毎日報告しており、状況変化時も都度連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に家族からの要望がよく出され利用者にとって必要なことについてはできるだけ叶えられるように職員全員で話し合い、支援している。家族とは密にコミュニケーションをとるように努め、気軽に意見、要望を表せるような雰囲気作りに努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が全利用者に関わることを目的としたユニット間の職員の異動は行っている。また、臨時で応援に入る場合もあるので、毎朝の申し送りは合同で行い、利用者の状況を全職員が把握するようにしている。レクリエーションなども合同で行い、両ユニットの職員、利用者は顔なじみの関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成の必要性を理解し、外部研修への参加やホーム内勉強会への積極的な参加を促している。外部の研修は全職員が交代で参加できるようにしており、受講者はミーティングで研修報告をして、職員間の知識の共有化を図っている。研修計画は今後作成の予定である。また、資格取得の支援もしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヵ月に1回近隣の病院が主催する認知症の勉強会に職員は夜勤者以外の全員が参加しており、他の事業所との交流や情報交換の場にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に利用者と家族に見学に来てもらい、お茶を飲んでホームの雰囲気をみてもらったうえで納得して入居してもらっている。可能な限り自宅を訪問し、ホームに持ってきてもらうなじみの荷物などを話し合って決めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を介護されるのみの立場に置かず、餅つきや味噌作りなど利用者先導で行ったり、畑の植え付けなどのアドバイスをもらうなど、ともに支え合いながら共同生活を送っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の主体性を尊重し、まず、利用者の思いや意向を聞き、反応や返事で本人本位に検討している。日常のケアで気づいたことなどは経過記録や申し送り時に発表し、職員は利用者の思いや意向を把握している。入居当初聞き出せなかったことなど日々寄り添い、傾聴することにより、1ヵ月以上経ってから話してもらえることも多い。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意向を反映させ、家族、職員の意見などと検討し、本人がいかに自分らしく生活出来るかを念頭に本人本位の介護計画を作成している。また、あらゆる予測事項についても職員全員で話し合い、対策を検討してケアプランに掲げている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は特に大きな変化がないときには3ヵ月ごとのモニタリングと見直しを行っている。個別の記録は日中と夜間に分けて小さな気付きなども記録に残すようにしている。また、状態変化時と入退院後の見直しはその都度行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして利用者の健康状態を小まめに把握し、健康管理に努めている。また、病院受診や退院の支援、お墓参りや自宅訪問など本人や家族の状況に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望するかかりつけ医となっており、急変時の往診や受診を安心して受けられるように支援している。定期的な往診もしている。また、1週間に1回訪問看護もあり、ホームの看護師と情報を共有し、利用者の健康管理に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期におけるホームの指針を家族に説明し、同意書もとっている。これまでにターミナルの経験もあり、医師、家族、訪問看護職員、ホーム職員の密な連携が必要なため、カンファレンスを繰り返し、その都度方向性を確認しながら、本人、家族にとって悔いのない支援を行っている。職員もターミナルケアを行えるホームとして、全員が方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシー保護についてはさりげなく声かけをするなど、プライバシーを損ねるような言葉かけに注意し、その人らしさを尊重し、否定的なことばかけをしないように心がけている。また、定期的にホーム内でロールプレイングによる接遇の研修も行っている。個人情報についての職員誓約書も採用時にとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかなホームの1日の流れはあるが、体調や希望に合わせた暮らしを支援している。利用者に主体性を持たせるような働きかけを常に心がけ、本人が選べるように場面作りをしている。起床・就寝時間も個々のペースに合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に合わせて食事の準備・片づけなどを職員とともに行動など力を発揮する場面を作っている。ホームの畑で採れた野菜を使った料理や鍋も楽しんでいる。また、ときには外食やラーメン流し、バーベキューなどを行い食事を楽しむ工夫をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきであるが、利用者の意向を考慮し対応している。入浴のない日は足浴をしている。入浴拒否の利用者には声かけを工夫しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し・たたみ、整理・整頓、野菜の下ごしらえ、新聞を取りに行くなど個々の役割の支援やぶどう狩り、梨狩り、外食、買い物ツアーなど月1回外出のレクリエーションも利用者や家族の楽しみになっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブなど外出の機会を設けている。また、畑や花壇、中庭庭園の散歩では季節を感じることができ、ときには庭の東屋でお茶を楽しむこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、外出傾向のある利用者は常に把握し、利用者を見渡せる空間で仕事をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち会いのもと、主に夜間想定で年に2～3回避難訓練を行っている。今年度は地域の近隣消防協力隊の参加をもらい実際に夜間帯に避難訓練を行った。非常時は地域の有線放送を活用し救助を求めるようにしている。備蓄も貯蔵庫があり、米、野菜、調味料などは常にふんだんに蓄えている。カセットコンロも数台準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嚥下機能の状態を把握し、食事形態を工夫している。毎月の体重測定と、2ヵ月に1回採血をし、利用者の状態を把握している。夏はスポーツ飲料やジュースをうすめてお茶とお茶のあいだに出したり、水分摂取の困難な利用者にはお茶ゼリーで対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は広く、明るくリビングには畳の部屋もある。両ユニットともにリビングは中庭に面しており、プライバシーが保たれている。また、中庭はレクリエーションの場としても活用しており、冬にはクリスマスツリーも飾られ利用者の目を楽しませている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や位牌、タンスや椅子、靴箱など使い慣れた家具や小物、写真などを飾り、その人らしい居室で居心地よく過ごせるよう工夫している。また、気の合った利用者同士、居室を訪問したりしている。		